

保育園においては、全体的な計画を踏まえ、それぞれの指導計画や食育の計画などに基づく保育士等による保育実践の振り返りを重視すると共に、保育内容等の自己評価及び公表を努力義務としています。

保育園での自己評価を踏まえ、理念や目標について共通理解を深め職員の資質向上及び職員全体の専門性の向上を図ると共に、保育内容の充実や保育の特性を生かした質の高い保育実践に努め、社会的責任を果たしていかなければいけないと思っています。

当園では、保育士は自己評価チェックリストを元に評価し、園長・副園長・主任保育士は保育所としての評価を元に振り返りを行うことにより、保育実践・内容等の課題を見つけ、改善の方向を探り、質的に向上させると共に今後更に豊かな保育を展開していくために活用することを目的とし、子どもの幸せに寄与できるように努めます。

1. 評価対象者 (19名)

<内訳>園長1名 副園長1名 主任保育士1名 副主任保育士1名
保育士12名 栄養士2名 調理員1名(年度途中退職)

2. 保育士等による保育内容等による評価内容

評価項目	評価内容
1 保育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育指導計画等は定期的に見直しを行っている ・ 年間テーマは職員で検討している ・ 指導計画は子ども一人一人の発達過程や状況に応じ作成している ・ 子どもの援助、支援は保育指針に基づき行っている ・ 環境構成は、保育や子どもの発達過程を意識し工夫している ・ 行事はねらいを明確にし、計画や実施に生かしている ・ 援助を必要としている子や、障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育内容や対応に配慮している ・ 小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて保育内容や方法など、保護者に伝えている ・ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10項目)を理解し、一人一人の発達に必要な体験が得られるようにしている。 ・ 自分を発揮できる環境、子どもが主体となって遊べるような関わりを行っている

評価項目	評価内容
2 健康・食育・安全・災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康管理は一人一人の健康状態に応じ対応している ・緊急時（事故・感染症の発生時など）における子どもの安全確保のための体制を整備している ・子どもの安全確保のために防災に対する計画を立て定期的に訓練を実施している ・健康な生活に必要な習慣が身に付くための援助と共に家庭への情報提供を行っている健康や安全な生活に必要な習慣が身に付くための援助と共に家庭への情報提供を行っている ・子ども達が安全に過ごせるために職員間で情報を共有したり、子ども達への援助を行っている ・楽しく食事ができるような配慮の工夫をしている ・食物アレルギーの対応や誤食防止に配慮している ・災害への備えを園全体で行っている
3 子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの子育てに対する相談や意見などには適切に援助を行っている ・地域の関わりを大切にし、おひさま広場（園開放）育児相談を積極的に取り組んでいる ・特別な配慮を必要とする家庭（外国籍家庭など）に個別の支援をしている
4 職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・職員同士話しをする機会や園内での研修を行っている ・外部やオンラインでの研修に参加する機会があり、その成果を保育に生かしている。 ・自己評価を定期的に行い質の向上に努めている
5 運営・管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所の役割について全職員が理解できるよう周知している ・職員会を適切に進めている ・守秘義務・法令の遵守をし、個人情報の取扱い及び苦情解決を適切に行っている ・施設内外・設備・遊具などの安全点検を計画的に行っている

3. 評価方法・結果

・各項目を はい いいえ で評価を行いました。（はい でもより取り組みが必要な項目には✓を行う。）

評価時期は前期（4月～9月）後期（10月～3月）の2回実施。

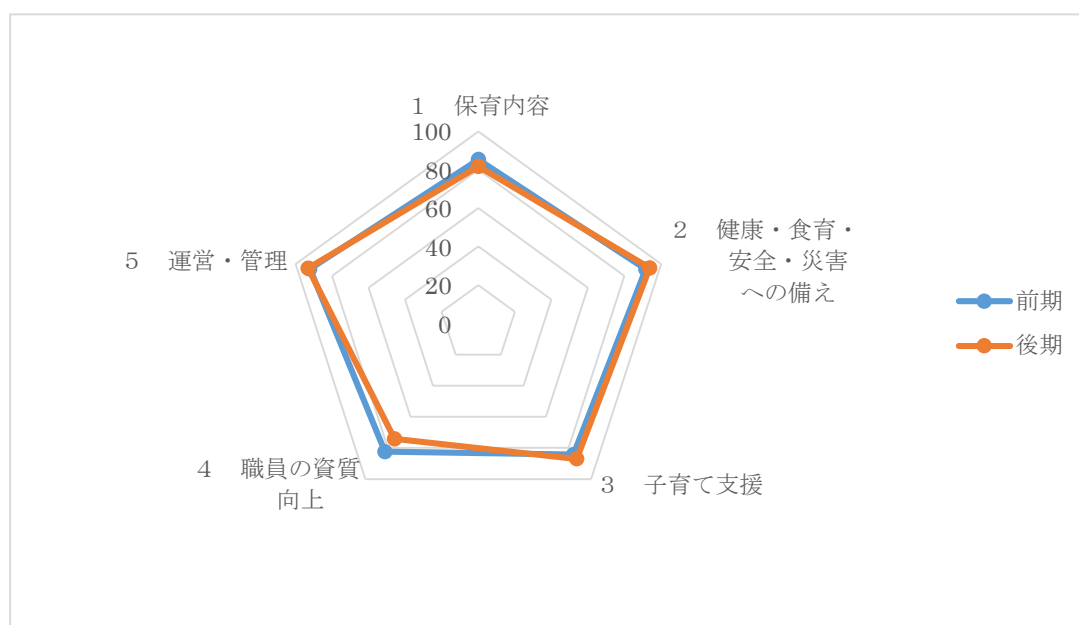
項目1～5については はい の比率を算出した結果を表1、図1に示しました。

また昨年度の反省を踏まえて本評価は園としての評価を個人の視点から行ってほしい旨を職員間で再確認しました。

表 1

評価項目	1 保育内容	2 健康・食育・安全・災害への備え	3 子育て支援	4 職員の資質向上	5 運営・管理
前期	85.3	91.6	84.2	82.5	92.1
後期	81.7	93.7	87	74.1	93.1

図 1



4. 考察・改善案

平均を算出するあたり、1 保育内容の項目内で、保育理念や全体的な計画について、10の姿、主体性のある保育の実践についての3つの項目で評価が分かれていることがわかりました。まず理念については見直しの必要性があるかどうかも考え、共有のみに留めておきたいと感じた。他の2項目については現在の保育業界の根幹のため、様々な研修を通して実践→反省→改善をしながら取り組んでいきたいと思います。

4 職員の資質向上 の項目が前期より値が下がった主な理由としては保育園の行事が後期に多く、研修の機会の減少や職員会での報告が行われにくかったことが考えられます。

また、全体の4 職員の資質向上 項目自体の値が低いのはパート職員が外部の研修を受講する機会がなかったことが主な要因と考えられます。

このことから外部研修→報告→実践の流れを作り、研修での学びを生かせる場や報告できる場をつくることや職員の職位に関わらず研修を受講できるような環境づくりを行っていきたいです。

また、より取り組みが必要な項目(✓)は前期に比べ後期では半分ほどの数になったことから、保育園もしくは保育士が意識することで取り組みは深まったと感じた。

その中でも1 保育内容における項目のチェックが多かったです。これは保育園への希望や保育士の専門性の向上意識によるものが大きいと感じた。

そのため、専門知識を今以上に必要だと感じたり、園として専門性を深めたいということを理解し、園内研修や日々の中で項目内の多い分野を取り入れていきたいです。

また職員の評価や取り組み状況を基に各評価項目における考察や改善案を検討していきます。

評価項目	考察・改善案
1. 保育内容	<ul style="list-style-type: none">・保育理念や全体的な計画は定期的見直し、職員での共有、理解度の確認は行えなかった。・子どもの発達や年齢により計画を作成した。・フリー保育士や担任の人数を調節することで安全にのびのび遊べるように配慮することができた。・10の姿はまだ覚えられていない。・子ども達の話や興味から主体的に遊べるような活動や遊びを進められたが継続的な遊びが少ない。
2. 健康・食育・安全・災害への備え	<ul style="list-style-type: none">・視診や検温を丁寧に行い、子ども達の体調の変化時には早めの対応を行えた。・嘔吐時の対応を研修で共有し、取り組むことができた。・消毒をこまめに行い、感染拡大防止に努めた。・クラス日より、給食だよりにて食に関しての情報提供を行えた。
3. 子育て支援	<ul style="list-style-type: none">・特別な支援が必要な家庭には様々な書類の作成や口頭で支援を行い、園全体で関わる事ができた。・送迎時（特に夕方）に保護者の相談や話を聞き、保護者支援を行えた。その内容を他の職員にも共有することができた。

<p>4. 職員の資質向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン研修を中心に参加し、日々の保育に活かすことができた。 ・園内研修・以上児会・未満児会でそれぞれの内容に合わせて話し合いの機会の場を設けている。 ・研修での学びを取り入れたいが継続が難しかったり、活かすきれない部分がある。 ・より園内研修を増やし、資質向上に努めたい。
<p>5. 運営・管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・守秘義務をしっかりと守り、保護者からの意見を受け止め、園に活かしている。 ・危険箇所はヒヤリハットや点検時のチェックで確認し、その都度修繕・修理を行った。 ・重要書類は必ず園内にて記入した。